

# 港湾計画策定における環境調査について

---

○令和4年度に港湾計画を策定する港湾管理者と港湾計画に関する事務を所掌する国土交通省との間で意見交換を行う検討会を立ち上げ、従来の港湾計画業務に関する課題を整理するとともに改善策を検討し、令和4年度中にとりまとめを行った。

分類	項目	基本的な方向性	港湾計画業務改善策	
			先行して取組む事項 R4年度中に検討実施	中長期的に継続して取組む事項 R5年度以降に検討実施予定
業務全体	財政面	①国との連携 (直轄事業に係る検討など) ②財政支援の検討	・国が港湾管理者の港湾計画策定業務に対して技術的な支援をする方針とし、明文化 ・港湾計画策定に活用できる可能性のある補助メニューを整理	・左記の整理を踏まえ、港湾計画業務に関する港湾管理者への財政支援のあり方を検討
	仕組み	①作業手続きの見える化 ②港湾計画変更の手続きの簡素化の検討	・本検討会において「港湾計画業務の作業全体の標準工程」を作成	・一部変更案件(一定基準のもの)について、書面による会議等の開催を検討 ・港湾計画業務のあり方について継続的に検討
検討手法	貨物量推計	①貨物量推計の考え方の整理 ②作業方針の整理	・上記の「港湾計画業務の作業全体の標準工程」の中で調査・検討時期等を整理	・貨物量推計の考え方について関係者を交えて整理。 ・上記の整理を踏まえ、貨物量推計ガイドライン(仮)等により作業方針を整理
	環境調査	①環境調査の内容の整理 ②作業方針の整理		・環境調査の内容について関係者を交えて整理。 ・上記の整理を踏まえ、環境調査ガイドライン(仮)等により作業方針を整理
	航行安全検討	①航行安全検討の内容の整理 ②作業方針の整理		・航行安全検討の内容について関係者を交えて整理。 ・上記の整理を踏まえ、航行安全検討ガイドライン(仮)等により作業方針を整理
	長期構想検討	①長期構想で利用した資料等の活用を検討 ②作業方針の整理		・改訂時に、長期構想委員会で利用した資料(貨物量推計、ゾーニング等)の活用を検討 ・上記の検討を踏まえ、長期構想検討ガイドライン(仮)等により作業方針を整理
変更プロセス	スケジュール	①スケジュールの柔軟化の検討	・港湾管理者の事情を加味し、引き続き柔軟な対応を実施	・[再掲]一部変更案件(一定基準のもの)について、書面による会議等の開催を検討
	業務の簡素化	①資料の簡素化 ②デジタル技術の活用を検討	・ウェブ上で港湾計画のリンクページを集約して掲載	・[再掲]長期構想委員会で利用した資料(貨物量推計、ゾーニング等)を改訂時に活用を検討 ・会議等で使用する港湾計画書等の電子データの活用を検討 ・計画書・計画図等共有についてサイバーポート等の活用を検討
組織・体制	人材確保・ノウハウの蓄積	①港湾計画業務に関する研修の充実化 ②港湾管理者と国との交流促進 ③港湾管理者間の連携	・港湾管理者を対象とした港湾計画に関する研修を継続的に実施 ・港湾管理者と国との意見交換の場の設置を検討 ・地方整備局等管内における港湾計画業務担当者の連絡先名簿を港湾管理者間で共有	・研修内容の一部見直しに向けた検討 ・港湾管理者と国との意見交換の場の設置を検討

# 港湾計画業務における環境調査について

- 環境調査については、「必要最低限の範囲とするなど効率的な調査にできないか」等の意見があり、各港湾の特性等を踏まえた必要な調査項目・調査内容等を検討することなどを通じて、港湾管理者の負担を軽減させる。
- 従来の港湾計画策定における環境調査の実施状況や港湾管理者が活用可能な環境調査に係るデータ等を整理・分析し、今後の港湾計画策定における環境調査について、各港湾の特性等を踏まえた必要な調査項目・調査内容等の検討を行う。

## ＜環境調査の考え方イメージ(案)＞

調査項目	全港湾のその2資料に記載する項目		各港湾の特性等を踏まえ調査要否を検討する項目	
	調査が必要	既存の調査データの活用可	調査が必要	既存の調査データの活用可
地域の概要				
環境の現況				
環境影響の予測と評価				
総合評価	総合評価			



＜地域の概要＞

- ・港湾の概況
- ・公害防止計画等
- ・下水道の整備状況
- ・その他



＜環境の現況＞

- ・大気質の現況
- ・騒音の現況
- ・振動の現況
- ・潮流の現況
- ・水質の現況
- ・底質の現況
- ・周辺地形の現況
- ・生物の現況
- ・生態系の現況
- ・人と自然との触れ合いの現況
- ・その他の現況



＜環境影響の予測と評価＞

- ・基本方針
- ・大気質への影響の予測と評価
- ・騒音による影響の予測と評価
- ・振動による影響の予測と評価
- ・潮流への影響の予測
- ・水質への影響の予測と評価
- ・地形及び地質への影響の予測と評価
- ・生物への影響の予測と評価
- ・生態系への影響の予測と評価
- ・景観への影響の予測と評価
- ・人と自然とのふれあい活動の場への影響の予測と評価
- ・その他の予測と評価